

いわざを辿る!

— 4 —

■掲載は旧14市町村の五十音順

旧内郷市（炭鉱の町編）（上）



1902（明治35）年、内郷大字白水字高倉に開削した入山採炭第一坑口



炭鉱事故で亡くなった人の慰霊のため始まったいわき回転櫓盆踊り＝2022年撮影

（安政三二年、後に、石炭の父と呼ばれる片寄平蔵が露頭の石炭層を発見し、翌年には湯長谷藩の許可を得て開鉱している。

当初は、石炭油（コールター）の製造を行っていたが、倉庫火災などもあって損失が出たと記録に残る。

その後、幕府軍艦などの燃料として片寄家で販売を行っていた。

当時の採炭法は露頭掘りのほか、狸たぬきの巣穴のような小さな穴を掘って採掘する「狸掘」が主で、洋式の採炭法が先行して取り入れられていた、九州地方の炭鉱とは大きな差があった。

維新後の明治期に入り、九州地方で起きた西南戦争を機に、同地方の石炭が不足したことから、別地域での採炭の必要性が認識され、実業家の浅野総一郎と、渋沢栄一らが一八八四（明治十七）年に「磐城炭礦株式会社」を設立。採掘の近代化などを進め、調査で判明した豊富な埋蔵量と、安価な石炭が注目された。

現在の湯本と小名浜を結ぶ専用鉄道「磐城炭礦軌道線」が先行して開業。十年後には、現在のJR常磐線にあたる、日本鉄道磐城線が久ノ浜駅まで開通、採炭が行われていた内郷村に「綴（現・内郷）駅」が開業した。

市の資料によると、大正時代から昭和二十年代にかけて、同駅の貨物取扱量のうち、発送量は全国トップを争う水準にあった。

明治の大合併（一八八九年）

炭鉱の町というと、常磐湯本町のイメージが強いが、実際に炭鉱として最初に発見さ

れ、事業が開始されたのは、内郷の白水町、弥勒沢。幕末期、百六十八年前の一八五六

年、片寄家が炭鉱を開採した。その後、幕府軍艦などの燃料として片寄家で販売を行っていた。

産業衰退で人口減少

渋沢栄一ら炭礦会社を設立

いわき市

1966（昭和41）年10月1日、5市4町5村が大同合併して誕生。64年3月に常磐・郡山地区が「新産業都市」に認定されるまで、各市町村が協議会を設立して活動したことが契機となった。面積は1,232km²で、市としては2003年まで国内最大、県内の約9%を占める。工業出荷額は例年、東北で1、2を争う。人口は令和6年3月1日現在、31万9,830人。1997年に中核市指定



1955年頃撮影。内郷大字宮の磐城炭礦施設とズリ山

一八八九年四月施行の、「明治の大合併」で、小島、御台境、御厩、高坂、内町、綴、白水、宮の八村で「内郷村」が成立。

石炭産業の発展に伴い、東北地方から炭鉱労働者などが流入し、一九四二年には町制

村から市へ発展

翌年に高野地区を併合。人口流出と脱石炭の動きに伴って、炭鉱から出た捨て石

合併前夜——炭鉱の町編

（出典・市資料などから）

時に、小島、御台境、御厩、高坂、内町、綴、白水、宮の八村が合併し、内郷村となった際には、二百二十戸余だった小さな農村が、一九五五（昭

和二）年のピーク時には人口約四十万人の内郷市に成長。炭が石油に移行する前、石炭産業の最盛期を知る九十代の男性は、「当時、炭鉱で働きながら、内郷の夜学に通って勉強し、将来にも夢があった。交代制で採掘を行っていたので、夜も眠らない町といった感じで、映画を見たり、運動会に参加したり楽しかったなあ」と、当時を述懐。

石炭産業とともに、村から町、やがて市へと、人口流入だけで発展した。最大四人を数えた人口も、現在は二万三千八百四十二人（二月

一日現在）と減少。二〇一九（令和元）年の東日本台風、昨年台風13号と線状降水帯による水害などに見舞われた。人口減少による町の疲弊も浮き彫りになっている。

市全体でも、少子高齢化、若者の市外流出など人口減少に歯止めがかからない。旧内郷市のような町の疲弊が、どの地域でも現今の課題となっている。市政の合理化、支出削減などとともに、町の活気を取り戻す施策が必要ということはある。

市全体でも、少子高齢化、若者の市外流出など人口減少に歯止めがかからない。旧内郷市のような町の疲弊が、どの地域でも現今の課題となっている。市政の合理化、支出削減などとともに、町の活気を取り戻す施策が必要ということはある。

市全体でも、少子高齢化、若者の市外流出など人口減少に歯止めがかからない。旧内郷市のような町の疲弊が、どの地域でも現今の課題となっている。市政の合理化、支出削減などとともに、町の活気を取り戻す施策が必要ということはある。

市全体でも、少子高齢化、若者の市外流出など人口減少に歯止めがかからない。旧内郷市のような町の疲弊が、どの地域でも現今の課題となっている。市政の合理化、支出削減などとともに、町の活気を取り戻す施策が必要ということはある。

市全体でも、少子高齢化、若者の市外流出など人口減少に歯止めがかからない。旧内郷市のような町の疲弊が、どの地域でも現今の課題となっている。市政の合理化、支出削減などとともに、町の活気を取り戻す施策が必要ということはある。

町編

■次号は旧内郷市II医療の

（和）

2024年3月～ マルト各店で販売開始!

食の安全・安心。さらに、おいしい

お花見や 行楽のお供に シーフードケーキ

創作かまぼこ かねまん 本舗

https://www.kaneman.net/ 0120-17-3360

電話・FAX・インターネットでも注文承ります。 本店営業時間AM8:00～PM4:00(年中無休)

■本店 福島県いわき市平下高久字下原83 TEL.0246-39-3360・FAX.39-3754

■いわき・ら・ら・ミュウ店 福島県いわき市小名浜字辰巳町43-1 TEL&FAX.0246-53-7125

■オンラインショップ www.kaneman.net インターネットでのご注文はこちら▶

皆様の幸運を招く 恵比寿様 大黒様

恵比寿様 大黒様